

診療参加型臨床実習を行うにあたってのお願い

診療参加型臨床実習とその必要性

診療参加型臨床実習とは、共用試験に合格した「臨床実習生 (医学)」(医学部 4～6 年生) が、患者さんの診療を担当する医療チームの一員として実際の医療を学んでいく制度です。患者さんからこれまでの経過を伺い、基本的な身体診察を行ったうえで、原因となる疾患を予測し、必要な検査を選択して、最終的な治療方針を決定するまでのプロセスを実践的に学びます。この実習を通じて、臨床実習生 (医学) は医師として不可欠な態度や技能を習得します。また、実習での経験は国家試験合格後の医師臨床研修へと引き継がれ、将来のより質の高い医療の提供へと直結します。診療参加型臨床実習は、我が国の未来を担う「良き臨床医」を育成するために必要不可欠な取り組みです。患者さんの皆様には、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床実習生 (医学) としての能力と資格

医学生が診療参加型臨床実習に参加するに足る能力(知識、技能、態度)を備えているかどうかは、実習開始前に実施される全国統一の「共用試験(知識・実技)」および学内独自の試験等によって厳格に評価されます。これらの試験に合格し、臨床実習生 (医学) としての能力と資格を認定された医学生のみが実習に参加します。なお、令和 5 年 4 月 1 日施行の改正医師法により、厚生労働省令で定める共用試験に合格した医学生は、医師の厳格な指導・監督の下において、一定の医行為を行うことが法的に認められています(可能な医行為については裏面の一覧表をご参照ください)。

医療事故等への補償

実習においては万全の注意を払っておりますが、万一、患者さんの健康やプライバシーを損なうような事象が発生した場合には、医学部長および病院長の責任において、迅速かつ誠実に適切な対応をいたします。

拒否できる権利

診療参加型臨床実習へのご協力は、患者さんの自由な意思に基づくものであり、いつでも拒否することができます。また、一度同意された後でも、随時その同意を撤回することが可能です。さらに、臨床実習生 (医学) が行う医行為について、特定の行為のみを個別に非同意とすることもできます。ご協力を辞退されたり、同意を撤回されたりする場合でも、その後の診療等において一切の不利益を被ることはございません。ご希望の際は、担当医またはスタッフまでご遠慮なくお申し出ください。

患者相談窓口について

診療参加型臨床実習における医行為や、臨床実習生 (医学) に対する疑問、ご意見、ご不安な点等についてご相談いただける専用の窓口を設けております。ご相談の際は患者さんのプライバシーを厳守いたしますので、どうぞ安心してご利用ください。

近畿大学医学部

近畿大学病院

「医学部の臨床実習において実施可能な医行為の研究」において例示されている医行為

分類	①必須項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施が開始されるべき医行為</u>	②推奨項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施が開始されることが望ましい医行為</u>
診察	診療記録記載（診療録作成）※ ¹ 医療面接 バイタルサインチェック診察法（全身・各臓器） 耳鏡・鼻鏡 眼底鏡 基本的な婦人科診察 乳房診察 直腸診察 前立腺触診 高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価）	患者・家族への病状の説明 分娩介助 直腸鏡・肛門鏡
一般手技	皮膚消毒 外用薬の貼付・塗布 気道内吸引 ネブライザー 静脈採血 末消静脈確保※ ² 胃管挿入※ ² 尿道カテーテル挿入・抜去※ ² 注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内） 予防接種	ギプス巻き 小児からの採血カニューレ交換浣腸
外科手技	清潔操作 手指消毒（手術前の手洗） ガウンテクニック 皮膚縫合 消毒・ガーゼ交換 抜糸 止血処置 手術助手	膿瘍切開、排膿 嚢胞・膿瘍穿刺（体表） 創傷処置 熱傷処置
検査手技	尿検査 血液塗抹標本の作成と観察 微生物学的検査（Gram 染色含む） 妊娠反応検査 超音波検査（心血管） 超音波検査（腹部） 心電図検査 経皮的酸素飽和度モニタリング 病原体抗原の迅速検査 簡易血糖測定	血液型判定 交差適合試験 アレルギー検査（塗布） 発達テスト、知能テスト、心理テスト
救急※ ³	一次救命処置 気道確保 胸骨圧迫 バックバルブマスクによる換気 AED※ ²	電気ショック気管挿管 固定などの整形外科的保存療法
治療※ ⁴	処方薬（内服薬、注射、点滴など）のオーダー 食事指示 安静度指示 定型的な術前・術後管理の指示 酸素投与量の調整※ ⁵ 診療計画の作成	健康教育

※¹ 診療参加型臨床実習実施ガイドライン「学生による診療録記載と文章作成について」を参考に記載する

※² 特にシミュレータによる習得ののちに行うべき

※³ 実施機会がない場合には、シミュレータによる修得も可である

※⁴ 指導医等の確認後に実行される必要がある

※⁵ 酸素投与を実施している患者が対象